ニューヨーク補習授業校だより

絆・きずな

平成31（2019）年
４月２０日発行
第３号

夢のふくらむ学校

本格的に授業が始まりました。学力診断検査を実施しました。

１３日、W校で新設の幼児部年中うさぎ１組２組では、さっそく糊と絵の具を使って工作に取り組みました。１組では、葉っぱに見立てた緑の画用紙に、糊を絞り出す練習を兼ねて葉脈を描き、乾く前にラメを散らしてキラキラの葉っぱを作りました。ひとくちに糊を出すといっても、持ち方や力の入れ具合など子どもにとってはなかなかうまくいかない場合もあります。教師とアシスタントが手伝いながら、繰り返すことによって作業に慣れさせていきます。キラキラの葉っぱは、糊を乾かすために、一時別の机に置いておくのですが、子どもたちにとっては、じ～っと眺めていたい存在のようでした。



列に並んで「早くラメ付けて～」

２組では、卵の紙パックを利用して、カラフルな毛虫？を作りました。「毛虫がさなぎになったら何になる？」と聞いたら「ちょうちょ！」と答えてくれた子がいました。知識もしっかりもっている年中さんです。思い思いの色を塗ってカラフルになったら、モールで仕上げます。身近にあるいろいろなモノに対して、創意工夫を加え「見立て」ることは、子どもの想像力や情操を育む上で非常に大切であるといわれています。思いを色やかたちに託して、伸び伸び製作していってほしいものです。



もう少し飾り付けてみようか？

ＬＩ校年中組の子どもたちも、初めての授業日では緊張の面持ちでした。うさぎ組では、教師が簡単な日本語の単語や歌を使って、いわゆるアイスブレーキングを行っていました。「グ～チョキパーで、なにつくろう♪」や「おいでおいでおいでパンダ♪」などに出てくる、いろいろなモノを、手作りカードで示しながら言葉を視覚から理解させる試みです。



うさぎ組：　は～い！しってるよ～



ひよこ組：何を描こうかな～

ひよこ組では、マーカーやクレヨンを使って、お絵描きを始めました。たぶん家でも、伸び伸びと描いていた経験があるのでしょうか、画面一杯に花を描く子がいる一方、遠慮がちに小さく描く子など、その子その子の持ち味が感じられる時間でした。描画材料にも、様々なものが開発されています。子どもの実態に応じた描画材料を用いて、自分の思いを画面一杯に表現させたいものです。

ニューヨークは、落書きアートから出発した画家キース・ヘリングを生みだしたオリジナリティを尊重する街です。思い思いの色やかたちで、自由なイメージを創造していってほしいものです。

１３日、小2～高1までの児童生徒対象に国語と算数・数学の標準学力検査（教研式NRT）を行いました。お子さんの補習校での学習の到達度を知るよい機会でもあります。６月には、個人の成績分析表が届く予定です。

